

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
露地野菜専業経営 I	人  3	ばれいしょ早掘りマルチ	200	a	1. 大規模農地での大規模栽培 2. 機械化 3. 無人ヘリ・ドローン防除(一部外部委託) 4. アイマサリ(早掘り)・ニシユタカ(春普通)等の利用で、目標収量を早掘り3t/10a、春作3.4t/10aを目指す 5. 冬にんじん圃場は、ばれいしょ春作マルチとの輪作体系 6. 冬にんじんの収穫は1/2の圃場で委託収穫を想定
		ばれいしょ春作マルチ	200		
冬にんじん	200				
計	600				
経営耕地面積		水田	100		
		畑(借地)	300(200)		
経営目標	1 農業総収入	33,371 千円	4 1日当たり農業所得	10,023 円	
	2 農業経営費	28,109 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,400 時間	
	3 農業所得	5,262 千円			

2. 資本装備と減価償却費

種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	1	作業及び収納舎	1	千円 5,671	24	千円 236
	1	農具舎	1	2,835	24	118
	1	ビニールハウス(浴光処理用)	1	497	10	25
		計		9,003		379
農機具	1	トラクター	1	2,128	7	152
	1	管理機	1	278	7	20
	1	動力噴霧機	1	184	7	13
	1	トラック	1	3,544	5	354
	1	運搬車	1	535	7	38
	1	堆肥散布機	1	779	7	56
	1	土壌消毒機	1	87	7	6
	1	植付け機(ばれいしょ)	1	194	7	14
	1	マルチャー(ばれいしょ)	1	167	7	12
	1	掘取機(ばれいしょ)	1	164	7	12
	1	茎葉処理機(ばれいしょ)	1	527	7	38
	1	播種機(にんじん)	1	209	7	15
	1	収穫機(にんじん)	1	439	7	31
1	ピッカー(ばれいしょ)	1	3,745	7	268	
	計		12,979		1,028	

3. 技術体系(ばれいしょ早掘りマルチ)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
種いも処理	種いも選別 種いも消毒 浴光育芽 種いも切断	11月～12月	トラック	2	6	12	種いも量 240kg 殺菌剤 防除桶 ハウス コンテナ・トロ箱 包丁	・種いもは検査に合格したものを使用する。シストセンチュウ発生地域では、抵抗性品種の導入により蔓延防止に努める。 ・消毒は未萌芽のいもを切断せずに処理する。 ・浴光処理は種付前約30日間行い、処理中は床内が25℃を超えないようにし、途中3回程度いもを上下入れ替える。 ・種いも切断は植付数日前に、2～4つに縦切る(1片35g程度)。
耕耘・整地	耕耘・整地	11月～12月	堆肥散布機 トラクター	2	2	4	堆肥 1,000kg	堆肥の多用はそうか病多発を招くので注意する。
土壌消毒	薬剤処理 ガス抜き	11月～12月	土壌消毒機 トラクター	2	2	4	土壌消毒剤 古ビニール	土壌病害多発ほ場では計画的に土壌消毒を実施する。
施肥・耕耘		12月	トラクター	2	1.5	3	10a当たり成分 N 22kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 18kg K <sub>2</sub> O 14kg	※強酸性圃場では石灰質資材を補給する。
植付		12月下～ 1月上	植付け機	2	1.5	3	種いも	栽植密度:畦幅60cm ×株間20～25cm、 10a当り6,600～8,300株
中耕・培土		1月中～ 2月上	管理機	1	1	1	鍬	軽中耕し、15cm程度培土する。
除草	除草剤散布	1月中～ 2月上	動力噴霧機 トラック	2	1	2	除草剤	マルチ前に除草剤を処理する。
マルチ		1月中～ 2月上	マルチャー	2	2	4	ポリマルチ 鍬	マルチ被覆は降雨後の土壌に湿りがある時に行う。
芽出し	芽出し作業	1月下～ 2月下		2	4	8	芽出し棒	出芽が始まったら、1～2日おきに見廻り、芽が焼けないようにポリフィルムを破って芽出しをする。
病虫害防除	薬剤散布	2月下～ 4月	トラック 動力噴霧機 無人ヘリ・ ドローン (外部委託)	2	2	4	殺菌剤・殺虫剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 ウイルス病、青枯病等の被害株は早期に 抜き処分する。
収穫・調整	茎葉除去 マルチはぎ 収穫 調整(風乾)	4月中～ 5月中	茎葉処理機 掘取機 ピッカー 運搬車 トラック	2	4	8	鍬・鎌 コンテナ	いもの皮むけや傷をつけないよう丁寧に行う。掘り取り後のいもは日陰で風乾。
出荷		4月中～ 5月中	トラック	1	2	2	コンテナ	共同選果場で選別、出荷する。
後かたづけ		4月中～ 6月	トラック	2	3	6	一輪車 コンテナ	茎葉、くずいもは病虫害の伝染源となるので片付け、処分する。
計						61		

3. 技術体系(ばれいしょ春作マルチ)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
種いも処理	種いも選別 種いも消毒 浴光育芽 種いも切断	12月～1月	トラック	2	6	12	種いも量 240kg 殺菌剤 防除桶 ハウス コンテナ・トロ箱 包丁	・種いもは検査に合格したものを使用する。シストセンチュウ発生地域では、抵抗性品種の導入により蔓延防止に努める。 ・消毒は未萌芽のいもを切断せずに処理する。 ・浴光処理は種付前約30日間行い、処理中は床内が25℃を超えないようにし、途中3回程度いもを上下入れ替える。 ・種いも切断は植付数日前に、2～4つに縦切する(1片35g程度)。
耕耘・整地	耕耘・整地	12月～1月	堆肥散布機 トラクター	2	2	4	堆肥 1,000kg	堆肥の多用はそうか病多発を招くので注意する。
土壌消毒	薬剤処理 ガス抜き	12月～1月	土壌消毒機 トラクター	2	2	4	土壌消毒剤 古ビニール	土壌病害多発ほ場では計画的に土壌消毒を実施する。
施肥・耕耘		1月	トラクター	2	1.5	3	10a当たり成分 N 22kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 18kg K <sub>2</sub> O 14kg	※強酸性圃場では石灰質資材を補給する。
植付		1月～2月	植付け機	2	1.5	3	種いも	栽植密度:畦幅60cm×株間20～25cm、10a当り6,600～8,300株
中耕・培土		1月中～2月	管理機	1	1	1	鍬	軽中耕し、15cm程度培土する。
除草	除草剤散布	2月	動力噴霧機	2	1	2	除草剤	マルチ前に除草剤を処理する。
マルチ		2月	マルチャー	2	2	4	ポリマルチ 鍬	マルチ被覆は降雨後の土壌に湿りがある時に行う。
芽出し	芽出し作業	3月		2	4	8	芽出し棒	出芽が始まったら、1～2日おきに見廻り、芽が焼けないようにポリフィルムを破って芽出しをする。
病虫害防除	薬剤散布	3月～5月	トラック 動力噴霧機 無人ヘリ・ドローン (外部委託)	2	4	8	殺菌剤・殺虫剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 ウイルス病、青枯病等の被害株は早期に抜取り処分する。
収穫	茎葉除去 マルチはぎ 収穫 調整(風乾)	5月～6月上	茎葉処理機 掘取機 ピッカー 運搬車 トラック	2	4	8	鍬・鎌 コンテナ	いもの皮むけや傷をつけないよう丁寧に。掘り取り後のいもは日陰で風乾。
出荷		5月～6月上	トラック	1	2	2	コンテナ	共同選果場で選別、出荷する。
後かたづけ		5月～6月	トラック	2	3	6	一輪車 コンテナ	茎葉、くずいもは病虫害の伝染源となるので片付け、処分する。
計						65		

3. 技術体系(冬にんじん)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
耕耘・整地	耕耘・整地	7月	堆肥散布機 トラクター	2	2	4	堆肥 2,000kg	有機物は前作に多用しておく。施用する場合は完全堆肥を用いる。発芽揃いを良くし、岐根を少なくするように丁寧に耕耘砕土を行う。
土壌消毒	薬剤処理 ガス抜き	7月～ 8月上	土壌消毒機 トラクター	2	2	4	土壌消毒剤	播種10日前にはガス抜きを終える。
施肥	基肥施用	8月上～ 9月上	トラクター 管理機	2	2	4	石灰質資材 120kg 10a当たり成分 N 10kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 14kg K <sub>2</sub> O 10kg	全量基肥を原則とする。(追肥は必要に応じて行う。)
播種		8月上～ 9月上	播種機	2	4	8	コート種子 10万粒 (切りワラ)	播種密度は、播種時期・品種に応じて調整する。(目安)畝間60cm×株間4cm(2条) 重粘土壌畑は播種後切りワラをかぶせる。
除草	除草剤散布	8月上～ 9月上	動力噴霧機	2	1	2	除草剤	地表に湿り気がある時に散布する。
かん水	かん水施設 設置	8月 8月～10月		2 1	2 11	4 11	かん水チューブ	播種時のかん水により発芽を促し、生育前半は乾燥させないよう適宜かん水する。生育中期以降の水分過多は、品質低下につながる。
間引き		8月下～ 10月上		3	8	24		間引きは2回程度行い、3～5葉期までに1本仕立て(適正株間)にする。
土寄せ	中耕・培土	9月～10月	管理機	1	3	3	鍬	肩部の緑化防止
病害虫防除	薬剤散布	9月上～ 11月	動力噴霧機 トラック	2	5	10	殺菌剤・殺虫剤 防除タンク	県病害虫防除基準に基づく適正防除。
収穫・出荷		11月～2月	掘取機 運搬車 トラック	3	8	24	包丁 コンテナ	M級中心の適期収穫に努める。 委託掘り取りの利用(全体の半分) 選果施設へ出荷する。
後かたづけ		11月～3月	トラック	2	3	6		
計						104		
							委託掘り取り 利用 (92)	

4. 品目の作付体系

(△植付け、○は種、□収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ばれいしょ 早掘りマルチ	△			□								△～
ばれいしょ 春作マルチ	△	～△			□							
冬にんじん							○	～○				□

